

桜蔭俳話会 一月句会 (第三三三回)

平成二十六年一月二十六日 (日)

会場・旭区民文化センター (サンハート)

- 4点①書初や少し謀叛の隨意筋 守
 何事も無きがしあはせ去年今年 友子
 悴せの尺度のなしや日向ぼこ ツル子
- 3点①錠剤の赤色黄色福寿草 守
 墨の香や少し引かるる春障子 才美
- 2点①父といふ遠心力や寒の月 守
 ①寒の水与へられたる命かな 守
 ①窓拭きて心待ちなる初茜 清子
 売り家札張り付いてゐる冬木かな 明美
 改札口二箇所となりし初詣 清子
 初詣で重たき絵馬の大社 ツル子
 ジェット機の劈く音の年新た ツル子
- 1点①抗体の生まるるまでのくさめかな 明美
 ①北風よ心の痛さ止めてくれ 直子
 ①歩かせてみたき大仏初詣り 幸
 ①戸すべりを直して春を迎ふべく 葉子
 ①自転車冬菜みどりを零し行く 才美
 垂れ枝の地軸を射るや寒真中 才美
 春浅しうすずみ色の雑木山 弘子
 巫子の舞ふ指の先まで淑気かな 幸
 ロックバンド・ジャズバンドあり弾始め 友子
 分解の錠へ油と冬日差す 明美
 山脈の近付いてをり寒日和 弘子
 寒雀狙ふ猫の背丸まれり ヤエ子
 大寒の小枝ゆるがぬ水面 秀一
 旅誘ふ駅のポスター春隣 秀一
 ひとくさり孫自慢して初句会 守
 ポットより明るきリズム寒波来る 明美
 老姉妹の昔話や冬籠 友子
 待ち合はず港のテラス春隣 秀一
- ※冬の夜くらやみの中雨の音 真壽
 賀状見て逢ふた気持となりけり 葉子
 頭髮の剃り生々し寒に入る ヤエ子
 全員で体操しつつ初日の出 直子
 遮断機の揺れなほ止まず寒の雨 秀一

お正月年をとるのに清々し	直子
幼児らのボールの行方春隣	秀一
茅ぶきの消えし集落山眠る	弘子
書き終えし日記を前に目を閉じて	葉子
真夜中に何の軋みか寒の入り	清子
年頭に登つてみたい山伏山	真壽
寒きびしマンションの灯の並びをり	ヤエ子
帆船の骨組みあらば風花す	友子
一碗の熱き朝粥利休の忌	才美
夢を追ふ賀状の友の気合かな	幸
名調子やきいもの声路地に消ゆ	ツル子
初詣さざめきながら長い列	真壽
孫の手を握る幸せ初詣	葉子
冬日和たい焼きの腹裂いてをり	明美
孫にきた大学受験神たのみ	直子
どつかりと真中の富士の初暦	友子
焼芋の手提げに匂ふ家路かな	弘子
獅子頭抱へ隣へ急ぎをり	清子
初詣終りし破魔矢焚き温む	真壽
初富士や水仙の香の満ちる道	ヤエ子
霜晴や硝子越しなる寿老人	清子
切干煮の匂ひ溢れるオールドデイズ	ヤエ子
腰のばし気負ふ五番の厚司かな	幸
獅子舞やおひねり口に笛太鼓	直子
空つ風サイレンの声泣き叫ぶ	真壽
冬オリオン蝶を埋めしは何時のころ	才美
うち揃ひ父似母似やお元日	弘子
古き友今年最後と賀状来し	ツル子

(不在投句 古野明美、稲葉幸、綾井葉子)

「事務局からお知らせ」

○二月の句会は休みです。

○三月句会

三月二十四日(月)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○第一二回通信句会作品募集

冬に属する季語を用いた三句。締切りは二月十日。同封の葉書でお送り下さい。